



## 躰（しつけ）の焦りは禁物

躰や生活習慣、そして、良いこと悪いこと等の規範は、いつ頃教えていくのでしょうか。我が子に手探りで教えている方も多いのではないのでしょうか。

この時期の子どもの成長には、著しい発達に伴います。1歳児と2歳児を比較すると運動能力や言葉の理解度は、大きく異なります。そして、さらに、2歳児と3歳児を比較すると、最も大きな違いが見られるようになります。

今日は、2歳を迎えた子どもの、社会性の育てについて考えてみましょう。



まず、自我の芽生えというものがあります。自我とは、自分の存在に気づく時期をいいます。子どもは、生後、この2歳前後まで生命を維持していくために親への依存度が非常に高く、親からの指示や命令はとても素直に受け入れます。しかし、この自我が芽生えと、今まで強く依存していた時期から、自立しようと自分の主張が強くなってきます。

また運動力も高まり、行動範囲も広くなります。そのため、外への欲求や、自分のしたいことへの主張が高まり、時々親を困らせたりします。さて、このような時期に達した頃から、親は、他児の存在や他人の目が気になるようになって来ます。

そのため、躰や基本的な生活習慣を子どもに経験させていこうとします。

躰や生活習慣の取り組みは、この時期から始めていくのが良いとされていますが、実際にどのように取り組めば良いのでしょうか。

初めに失敗する例をご紹介します。毎日、子どもに、「しまいなさい」「片付けなさい」「すぐやいなさい」「どうしてやらないの」などの言葉で命令してしまうと益々やらなくなり、手こずり、大きな声を張り上げて威圧した中で、無理矢理やらせていく方法で強要してしまいます。

では、子どもに正しく生活習慣を身につけさせるためには、どうしたら良いのでしょうか。まず、躰や生活習慣を身につけさせようとする場面に出会ったら、笑顔で、親がして見せてあげてください。「これ、〇〇ちゃんの、こうしてしまうのよ」と「して見せていく」ことが、最も大切な関わり方となります。そして、一緒に何度かして見せながら、少しずつ自分でできるようにしていきます。規範などは、「どうしたいかな」「どうしよう」と疑問を投げかけながら、正しい方向に誘導して、「良かったね」「できたね」「頑張りましたね」と、正しい言葉で伝え、心から喜んであげるひとが大切です。2歳を過ぎる頃から、少しずつ、焦らず、マイペースで大丈夫ですから、是非取り組んでみてください。